

令和3年度 学校経営計画書

玉野市立玉野備南高等学校

◎本校のミッション（使命、存在意義）

- ・学ぶ意欲のある多様な生徒を受け入れ、社会性・自立心を身に付けたよき社会人を育成する。
- ・三修制を取り入れた昼間部定時制課程の特徴を生かし、働きながらも学べる教育の機会を提供する。
- ・生涯学習センターと併設されている環境を生かし、聴講生の受け入れなど、生涯学習活動にも貢献する。

◎内外の環境分析

○校内について

- ・情報交換や意思疎通がなされている教員集団であり、個々の生徒の問題点を把握しやすく、支援しやすい。
- ・少人数クラスのため、生徒とのコミュニケーションが取りやすく、生徒の実態に合わせた教科等の個別指導が行いやすい。
- ・タブレットパソコンの導入によって、「学びの深化・転換」を図る授業の展開が可能である。
- ・生涯学習センターと併設されている環境を生かすことができる。
- ・発達障害を抱える生徒の割合が徐々に増えており、これまでの個を大切にしている指導を踏まえ、特別支援教育の視点を持った指導や通級による指導の推進に取り組む必要がある。
- ・人間関係のトラブル等で不登校になりやすい、モラル・マナーの意識が低い、発達障害を抱えているといった特徴の異なった生徒が混在している。

○校外について

- ・SC、SSW、就労支援コーディネーター、特別支援学校の専門指導員等、玉野市内外の関係機関と生徒支援のための連携が取れている。
- ・働くことにより、勤労観や社会性を身に付けやすい。
- ・就労体験等を通じて、支援を必要とする生徒の社会的自立を促すことができる。
- ・小規模の学校、クラスであるため、柔軟に校外活動や社会貢献活動に対応することができる。
- ・市外からの生徒も在籍しており、家庭や関係機関との連絡がとりにくいことがある。

ミッションの追求を通じて実現しようとする本校のビジョン（将来像、目指す姿）

- ・生徒が学ぶことに喜びを感じ、自信と自立心を身に付け、卒業時によかったと思える学校。
- ・多様な特性を持つ生徒に対して家庭や地域と連携し、きめ細かい指導を行う学校。
- ・基礎学力の充実を図り、社会に貢献できる人間を育成する学校。
- ・学校行事、生徒会活動、部活動等への積極的な取組を通して、豊かな人間性と社会性を育てる学校。
- ・教職員が自らの研鑽に努めるとともに、地域との連携を積極的に推進する学校。

◎当該年度の具体的な学校経営目標・計画

○生涯にわたり学ぼうとする態度や社会で生きていくために必要な学力を育てる。

- ・「備南スタンダード（明確な授業規律）」を徹底し、はじめのある態度で授業に臨み、主体的な学びを深め、社会で自立するために必要な学力を育てる。
- ・授業のユニバーサルデザイン化を取り入れた授業を実施し、生徒が学びの意欲を高めることができるようにする。
- ・タブレットパソコンを有効活用することによって、生徒が主体的に授業に取り組む場面を増やす。
- ・新学習指導要領に対応した教育課程編成と学習評価の工夫・改善に取り組む。

○社会に必要なマナーやルールを守り、自分及び他人を大切にできる人間力を涵養する。

- ・社会のルールや校内規則の遵守と基本的な生活習慣の確立を図り、遅刻や欠課を減らす。
- ・はじめのある態度や思いやりのある行動を育て、あいさつや正しい言葉遣いができるようにする。
- ・交通安全の規範意識を高め、交通ルールの遵守とマナーの向上を図る。
- ・学校行事や部活動における生徒の主体的活動の促進を図る。
- ・各種清掃活動等を通して、奉仕の精神を養い、社会性や豊かな人間性を育てる。

○地域と連携したキャリア教育の推進を図り、働き自立してより良く生きようとする態度を育てる。

- ・地域の人的・物的資源をより一層活用し、進路行事やキャリアパスポートを通じた指導体制を確立することで一人ひとりのキャリア発達を促す。
- ・アルバイトの奨励やボランティア・インターンシップへの参加を促進することにより、勤労意欲や進路意識の高揚を図る。
- ・生徒の希望に添った進路選択を可能にするため、求人開拓や学校訪問を行う。また、必要に応じて就労支援の各機関とも連携を図る。

○生徒一人ひとりの実態を把握し、通級をはじめ特別支援教育や教育相談を推進する。

- ・入学希望者の学校見学を受け入れ、本校の教育活動や校内の様子をよく知ってもらうことにより、入学後の学校生活への適応を図る。
- ・教育相談の体制を整備し、関係機関と連携しながら、課題解決に必要な計画や手立てを作成、実施する。
- ・関係機関と連携しながら、通級による指導に対しての情報収集や教材研究を行い、個々の実態に合わせた指導を図る。
- ・特別支援教育に関わる校内研修を実施し、全教員で指導内容の共通理解と研究を行う。
- ・就労支援、通級指導、外部機関との連携の必要性を適切に検討・判断し、個に応じた進路指導を展開する。

○人権教育の充実を図り、外部関係機関と密接に連携しながら、いじめの根絶に取り組む。

- ・人権についての理解を深めさせ、いじめを許さないという共通認識を学校全体で形成する。
- ・外部関係機関との連携を通じ、家庭の協力のもと、いじめ防止及び対策の充実を図る。
- ・学校生活アンケート等を実施し、いじめ等の問題行動の早期発見、未然防止に努める。